



病院は冷たくなったのか ～地域医療・福祉連携における問題点～

笠間市立病院長 石塚恒夫

皆さんは、最近、家族や知り合いが病院から早く退院するように言われて困ったことはありませんか。高齢者は脳卒中や手術をきっかけに身の回りのことができなくなり、急に介護の必要度が上がることがよくあります。最近では、老夫婦だけの世帯も増えていますし、子どもと一緒に生活していても昼間は一人ということも珍しくありません。介護保健施設への入所を希望しても、いっぱいですぐには入れません。

現在、医療機関や介護施設の間では、地域医療・福祉連携と呼ばれる「住み分け」が進んでいます。急性期病院・亜急性期・回復期病院・慢性期を担う介護保健施設に大まかに分けられます。介護保健施設は、介護・リハビリ・医療の必要度に応じて、特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・療養型病床群があります。特に、急性期病院では、入院が長期化すると入院基本料が段階的に減らされたり、診療報酬が入院日数によらず病態に応じた定額制になったりするため、十分に回復するまで入院させることが困難なこともあります。

当院も例外ではなく、入院後慢性期の状態になれば、在宅療養もしくは介護保健施設への移行をお願いしてい

ます。施設入所を希望される場合、複数の施設をあたってもらっても早期に決まらないことも増えています。在宅療養を希望される場合には、退院前にケアマネジャーや訪問看護師・介護スタッフ等が参加するケアカンファランスを開き、十分な医療・介護体制を整えたいうえで退院できるようにしています。これは、当院が在宅療養を支援するということを理念としているからであり、当院の存在意義と考えるからです。時に状態が悪化して入院することもあります。それも含めて安定した在宅療養を維持できるようにするのが目標です。最近では、県立中央病院との連携も深め、慢性期の療養先が決まらない方の紹介も受けています。

役割分担は合理的なやり方ですが、連携がうまくいかなければ患者さんの行き場がなくなる冷たいものになります。自分の手を離れた後どうなるか、家族の介護力や経済状態なども考慮しなければなりません。家族に介護力がないのに、経済的な問題で在宅療養を選択せざるを得ない患者さんも増えています。医療も人手不足が深刻ですが、自分たちの役割がどこまでなのかを再認識して取り組む必要を感じています。

笠間のがんばる企業紹介⑧

笠間市には、全国でもトップクラスの技術を持つ企業がたくさんあります。このコーナーでは、より良い製品づくりを目指して研究・開発に取り組む市内の企業を紹介いたします。

ホームページを開設しました

企業誘致推進室では、笠間市への企業誘致、市内企業の支援に関する情報を提供するホームページ（HP）「笠間市企業誘致・支援ガイド」を開設しました。HPには、「笠間市がんばる企業応援連絡会」に参加している企業の求人情報も掲載していますので、ぜひ、ご覧ください。



<http://www.city.kasama.lg.jp/kigyuu/>

「笠間市がんばる企業応援連絡会」を発足しました

市内で活動する企業と行政の連携を深め、支援するための組織「笠間市がんばる企業応援連絡会」が発足し、趣旨に賛同した地元企業55社が入会しました。2月13日に開催された第1回連絡会では、今後の方針などが話し合われたほか、市長との懇談会も実施しました。連絡会の主な事業は次のとおりです。

① 企業のイメージアップ事業

市内の企業をHPで紹介し、イメージの向上を図ります。また、求人情報を掲載し、人材確保に役立てます。

② 企業と行政との情報交換事業

企業からの相談窓口を企業誘致推進室に一本化。要望を集約し、関係機関と調整します。

③ 行政情報の研修会事業

企業活動に関係する行政情報についての研修会を開催し、連携を強化します。

④ 企業間の交流事業

企業同士の交流を深め、企業の発展と地域の振興に取り組みます。



第1回連絡会の様子

※市内で活動する企業であれば、業種・規模を問わず参加することができます。希望される企業は、HPから申し込みいただき、企業誘致推進室までお問い合わせください。

問 企業誘致推進室（内線562）